



大団  
911.2  
Sa Si  
0











ちかきあはれなるる 歌なり  
 春のちかきあはれなるる 歌なり  
 ありともあはれなるる 歌なり  
 春のちかきあはれなるる 歌なり  
 ありともあはれなるる 歌なり  
 春のちかきあはれなるる 歌なり  
 ありともあはれなるる 歌なり  
 春のちかきあはれなるる 歌なり  
 ありともあはれなるる 歌なり  
 春のちかきあはれなるる 歌なり  
 ありともあはれなるる 歌なり

何処

二

二

何処

ちかきあはれなるる 歌なり  
 春のちかきあはれなるる 歌なり  
 ありともあはれなるる 歌なり  
 春のちかきあはれなるる 歌なり  
 ありともあはれなるる 歌なり  
 春のちかきあはれなるる 歌なり  
 ありともあはれなるる 歌なり  
 春のちかきあはれなるる 歌なり  
 ありともあはれなるる 歌なり  
 春のちかきあはれなるる 歌なり  
 ありともあはれなるる 歌なり





花くさる花の所を花の  
 分りたれたれとて花の  
 見れ花のまゝに花の  
 いかさうやのあら海うん  
 わん懐はあゝ花のまゝに花の  
 多海うんくくたてあゝ  
 河者くさるくさる花の  
 嫩くくさるくさる花の  
 如くくさるくさる花の  
 今昔花のまゝに花の  
 いかさうやのあら海うん  
 花のまゝに花のまゝに  
 花のまゝに花のまゝに  
 花のまゝに花のまゝに

花くさる花の所を花の  
 分りたれたれとて花の  
 見れ花のまゝに花の  
 いかさうやのあら海うん  
 わん懐はあゝ花のまゝに花の  
 多海うんくくたてあゝ  
 河者くさるくさる花の  
 嫩くくさるくさる花の  
 如くくさるくさる花の  
 今昔花のまゝに花の  
 いかさうやのあら海うん  
 花のまゝに花のまゝに  
 花のまゝに花のまゝに  
 花のまゝに花のまゝに







かゝり多し孤あるまじしはかて  
たごのたごらさきやまき  
とてくたは海はあつたや  
山のあまのつと上もすのた  
いさひのたごのたごまは  
はかりのちやまのたごのた  
わたりもきいさきとらまき  
船風くつとすまのたごひく  
あつたつたつたつたつた  
清勝二のたごらまは  
はかたのたごらまのたご  
あつたつたつたつたつた  
つたつたつたつたつた  
かゝり多し孤あるまじしはかて

くぬのたごらまのたごら  
そらつたつたつたつた  
あつたつたつたつたつた  
あつたつたつたつたつた  
あつたつたつたつたつた  
あつたつたつたつたつた  
あつたつたつたつたつた  
あつたつたつたつたつた  
あつたつたつたつたつた  
あつたつたつたつたつた  
あつたつたつたつたつた  
あつたつたつたつたつた  
あつたつたつたつたつた  
あつたつたつたつたつた  
あつたつたつたつたつた



世に心もあはれとてはなれど  
あはれなるはなれど  
あはれなるはなれど  
あはれなるはなれど  
あはれなるはなれど  
あはれなるはなれど  
あはれなるはなれど  
あはれなるはなれど  
あはれなるはなれど  
あはれなるはなれど

心前千句  
一巻

心前  
千句

有世は心もあはれとてはなれど  
あはれなるはなれど  
あはれなるはなれど  
あはれなるはなれど  
あはれなるはなれど  
あはれなるはなれど  
あはれなるはなれど  
あはれなるはなれど  
あはれなるはなれど  
あはれなるはなれど











かにくはしりたるあはら  
 ちちつめを梅のたけむし  
 さうあしんぶくさかきと  
 せんりつらるるをたかひ  
 といわぬ花とて人のあはれ  
 物さうすくを待たぬとせ  
 ちちつめはたけむしとて  
 かしらふはたけむしとて  
 かしらふはたけむしとて  
 かしらふはたけむしとて

三つてあまのつゆはた  
 そらつゆはたあまのつゆ  
 かしらふはたけむしとて  
 あまのつゆはたあまのつゆ  
 かしらふはたけむしとて  
 あまのつゆはたあまのつゆ  
 かしらふはたけむしとて  
 あまのつゆはたあまのつゆ  
 かしらふはたけむしとて  
 あまのつゆはたあまのつゆ  
 かしらふはたけむしとて  
 あまのつゆはたあまのつゆ  
 かしらふはたけむしとて





とらけつゝのひかへし山鳥  
あつゝのひかへし山鳥  
わさつらや常流らへし山鳥  
あつゝのひかへし山鳥  
あつゝのひかへし山鳥  
あつゝのひかへし山鳥  
あつゝのひかへし山鳥  
あつゝのひかへし山鳥  
あつゝのひかへし山鳥  
あつゝのひかへし山鳥

付るをサナフ

しや長三

あつゝのひかへし山鳥  
あつゝのひかへし山鳥  
あつゝのひかへし山鳥  
あつゝのひかへし山鳥  
あつゝのひかへし山鳥  
あつゝのひかへし山鳥  
あつゝのひかへし山鳥  
あつゝのひかへし山鳥  
あつゝのひかへし山鳥  
あつゝのひかへし山鳥

白河

才六 十才







十人しよんしんあるはけ  
 じしんあまのうしんしん  
 とひらく道いふれきき  
 あたるとおのりいひあり  
 引はせらるるのききこ  
 吹くはこいふはしんあま  
 高と程なるはしんあま  
 年いひこらるるのあま  
 いふあまするはしんあま  
 くらきこらるるはしんあま  
 氏神のききあまあま  
 梅れあまのわらあま  
 河いふあまあまあま  
 是れあまあまあま

江の川あまあまあま  
 若くはあまあまあま  
 いかして招くはあまあま  
 引金れあまあまあま  
 月あまあまあまあま  
 秋れあまあまあまあま  
 ころあまあまあまあま  
 かりあまあまあまあま  
 油のあまあまあまあま  
 山あまあまあまあま  
 すまあまあまあまあま  
 常あまあまあまあま  
 わあまあまあまあま









心前千句  
あつらひのけの家のり  
生の心は神の心なり  
心くさひのたつた  
らまはれあはれ  
わけはあはれ  
獨りつる花  
はらのけりれ

何本一

何本一

何本一

何本一

麻糸を巻くはあはれ  
心くさひのたつた  
らまはれあはれ  
わけはあはれ  
獨りつる花  
はらのけりれ





玉のなほと音のなほと  
 心前千句  
 山はなほと音のなほと  
 風はなほと音のなほと  
 水はなほと音のなほと  
 花はなほと音のなほと  
 鳥はなほと音のなほと  
 虫はなほと音のなほと  
 雲はなほと音のなほと  
 霧はなほと音のなほと  
 雪はなほと音のなほと  
 雨はなほと音のなほと  
 雷はなほと音のなほと  
 電はなほと音のなほと  
 虹はなほと音のなほと  
 月はなほと音のなほと  
 星はなほと音のなほと  
 朝はなほと音のなほと  
 夕はなほと音のなほと  
 春はなほと音のなほと  
 夏はなほと音のなほと  
 秋はなほと音のなほと  
 冬はなほと音のなほと

山はなほと音のなほと  
 風はなほと音のなほと  
 水はなほと音のなほと  
 花はなほと音のなほと  
 鳥はなほと音のなほと  
 虫はなほと音のなほと  
 雲はなほと音のなほと  
 霧はなほと音のなほと  
 雪はなほと音のなほと  
 雨はなほと音のなほと  
 雷はなほと音のなほと  
 電はなほと音のなほと  
 虹はなほと音のなほと  
 月はなほと音のなほと  
 星はなほと音のなほと  
 朝はなほと音のなほと  
 夕はなほと音のなほと  
 春はなほと音のなほと  
 夏はなほと音のなほと  
 秋はなほと音のなほと  
 冬はなほと音のなほと











抄るる家徳をうに集るる  
 也之十年之痛の山を  
 たりて後今更らある神徳河  
 風り由する入わりの子  
 なるは神のあいの打るひき  
 するもよるるにこの道  
 華るものらあまれ集て  
 はる物らるるれら

付是共言

内長一

毒れ下道らるるあ言に  
 若しの手れあれおゆり又  
 例をて田舎のあれは  
 所あつるひきはるる  
 心もける物あつるる  
 例をらるるはの十  
 美れあつるはけり  
 引するあつるら

初何

お十

十あり

とし高きとつたるや海は  
 浪よ入の母れり  
 夕垣の夕るるに  
 影らほしきあり十五のね  
 傾きも海にさく神さし  
 しんあまのしんあまのさよ風  
 屋のこぼれははらさそ  
 碑のこぼれははらさそ  
 くれのこぼれははらさそ  
 折る所の花の本れり  
 昔もよほの神さそ  
 子もよほの神さそ  
 子もよほの神さそ  
 子もよほの神さそ  
 子もよほの神さそ

とし高きとつたるや海は  
 浪よ入の母れり  
 夕垣の夕るるに  
 影らほしきあり十五のね  
 傾きも海にさく神さし  
 しんあまのしんあまのさよ風  
 屋のこぼれははらさそ  
 碑のこぼれははらさそ  
 くれのこぼれははらさそ  
 折る所の花の本れり  
 昔もよほの神さそ  
 子もよほの神さそ  
 子もよほの神さそ  
 子もよほの神さそ  
 子もよほの神さそ



樹の心は思ひの枝をこゝろ  
 千の心は思ひの枝をこゝろ  
 ぬる鳥の心は思ひの枝をこゝろ  
 奥の心は思ひの枝をこゝろ  
 引の心は思ひの枝をこゝろ  
 木の心は思ひの枝をこゝろ  
 水の心は思ひの枝をこゝろ  
 土の心は思ひの枝をこゝろ  
 空の心は思ひの枝をこゝろ  
 地の心は思ひの枝をこゝろ  
 人の心は思ひの枝をこゝろ  
 神の心は思ひの枝をこゝろ

灯の心は思ひの枝をこゝろ  
 月の心は思ひの枝をこゝろ  
 星の心は思ひの枝をこゝろ  
 雲の心は思ひの枝をこゝろ  
 雨の心は思ひの枝をこゝろ  
 雪の心は思ひの枝をこゝろ  
 風心の心は思ひの枝をこゝろ  
 花心の心は思ひの枝をこゝろ  
 鳥心の心は思ひの枝をこゝろ  
 魚心の心は思ひの枝をこゝろ  
 虫心の心は思ひの枝をこゝろ  
 草心の心は思ひの枝をこゝろ  
 木心の心は思ひの枝をこゝろ  
 石心の心は思ひの枝をこゝろ  
 土心の心は思ひの枝をこゝろ

うらみのいづれもあはれなるは  
 可成りあはれなるはあはれなるは  
 ありはれなるはあはれなるは  
 かゝるはあはれなるはあはれなるは  
 くらゐなるはあはれなるは  
 なるはあはれなるはあはれなるは  
 言ひなるはあはれなるはあはれなるは  
 竹のなるはあはれなるはあはれなるは  
 出なるはあはれなるはあはれなるは  
 草なるはあはれなるはあはれなるは  
 川なるはあはれなるはあはれなるは  
 鳥なるはあはれなるはあはれなるは  
 虫なるはあはれなるはあはれなるは  
 人なるはあはれなるはあはれなるは

千のなるはあはれなるはあはれなるは  
 言ひなるはあはれなるはあはれなるは  
 竹のなるはあはれなるはあはれなるは  
 出なるはあはれなるはあはれなるは  
 草なるはあはれなるはあはれなるは  
 川なるはあはれなるはあはれなるは  
 鳥なるはあはれなるはあはれなるは  
 虫なるはあはれなるはあはれなるは  
 人なるはあはれなるはあはれなるは  
 山なるはあはれなるはあはれなるは  
 水なるはあはれなるはあはれなるは  
 火なるはあはれなるはあはれなるは  
 風なるはあはれなるはあはれなるは  
 土なるはあはれなるはあはれなるは  
 空なるはあはれなるはあはれなるは  
 地なるはあはれなるはあはれなるは  
 天なるはあはれなるはあはれなるは

日くしつる者よむれと陰  
 養つひとひきまのちけ  
 意くら梅はゆきさう花  
 子よいあらうめかこつ  
 かりあく相うきのこく  
 里あつこやそらうにまら  
 根くしあらう梅あまを  
 うまひさるしきはたぐ神

竹葉甘露

竹葉甘露

い千のんを母れせり  
 手とあつとあつとあつ  
 夏つらうのれあまの口  
 里よあつとあつとあつ  
 冷とあつとあつとあつ  
 志あつとあつとあつとあ  
 厚もあつとあつとあつ  
 うとあつとあつとあつ  
 せりあつとあつとあつ  
 らんとあつとあつとあつ



紙也



